

図柄入りナンバープレート等に関する検討会（第4回）

議事概要

1. 日時：令和7年3月28日（金）15：00～16：30
2. 場所：国土交通省低層棟共用会議室6
3. 出席者：石田委員、今田委員、岡安委員、北嶋委員、竹岡委員、寺井委員、
吉田委員（50音順）

4. 議事概要

- （1）資料1、2の説明後、議事2について議論を行った。
- （2）議事2の議論終了後、議事3について議論を行った。
- （3）資料3の説明後、議事4について議論を行い、まとめを行った。

<自動車ユーザーに対するアンケート調査の報告等について>

○ 供給者側の負担が増えることについて、供給者側の様々なコストは物価高騰等で上がっている中で、図柄入りナンバープレートがカラーとモノトーンの2種類あるとコストアップにつながり、最終的に交付手数料としてユーザーに負担いただくことになる。今後も自治体の要望を受け地方版図柄入りナンバープレートの種類の増加に対応するため、図柄はフルカラーのみとして、コストを低廉化し、ユーザー負担を軽減することが望ましいのではないかと。アンケート結果を踏まえても、モノトーンに一定のニーズがあることはわかるが、モノトーンを廃止しても困るユーザーは極わずかで、モノトーンがない場合、フルカラーを選ぶユーザーは約7割いるので、モノトーンは廃止しても良いのではないかと。

○ 全国の標板メーカーに影響がなければ、新たな全国版の図柄を白や黒等を基調としたものとする、または既存のモノトーンを廃止しても良いのではないかと。

○ フルカラーの図柄しかない場合につけようと思わない方の理由として「派手すぎるから」との回答が一番多いが、この回答に地域差がほとんどないのであれば、一定程度落ち着いた図柄へのニーズがあることが判明する。モノトーンを廃止するならば、モノトーン基調の新たな全国版を導入するということの一つの解になるのではないかと。

○ 実際の登録車と軽自動車におけるモノトーンとフルカラーの台数に今回のアンケート結果を掛け合わせたときに、全体として、登録車と軽自動車で図柄入りナンバープレートを取り付ける台数がどれくらい増えるか寄付金額への影響をシミュレーションしてはどうか。また、ナンバープレートの原価を下げることも課題であるが、図柄入りナンバープレートの普及を促進して寄付金を増やすことが目的と考える。目的を鑑みると、モノトーンにも寄付金を設定して、ユーザーに対してモノトーンを選択肢を残しつつ、ナンバープレートの原価にも配慮するのが良いのではないかと。

○ 寄付金を増やしていく場合、寄付ありのフルカラーを前提に考えていく必要がある。モノトーンを廃止した場合、現在モノトーンを付けている全ユーザーがフルカラーに移行することはないが、一定数フルカラーに移行するならば、寄付金は増加する。今回のアンケートの結果、モノトーンを廃止しても、フルカラーを選択する層は一定数いることが判明したので、モノトーンを廃止しても良いのではないかな。

○ モノトーンを廃止することでユーザーのメリットが損なわれたという印象をもたれるのは良くない。ユーザーのメリットを踏まえつつ、今後の交付手数料のあり方とセットで考えていくべき。

○ デザインの観点では、フルカラーをモノトーンに変更する場合、フルカラーをそのままモノトーンにするということではなく、独自の濃淡を考えなければならない。デザインする側としては、フルカラーとモノトーンの違いを考慮する必要がなくなるので、フルカラーのみにした方が提案しやすくなる。

○ ナンバープレートのマーケット全体の大きさを考えた場合、全国版のみモノトーンを残すこともあり得るのではないかな。また、フルカラーのデザインが好みではないという声もあるが、地方版には地域名表示単位と都道府県単位の図柄があり、さらに全国版も選べる。供給者に影響のない範囲でユーザーに選択肢が複数あれば問題ないのではないかな。複数の選択肢を用意しようと努めていることも説明すべきである。寄付金額への影響はぜひシミュレーションしていただきたい。

<地方版図柄入りナンバープレート等に係る要望について>

○ 導入要件については、多くの種類ナンバープレートを払い出すことになる行政が混乱するため、どこまでの要件とするのか慎重な議論が望まれる。全ての自治体から地方版図柄入りナンバープレートの導入要望がなされても、供給者側は対応できない。自治体の要望は理解するが、供給者としても種類が増えると生産コストのコストアップ、ひいては交付手数料に影響が及ぶこととなり、ユーザー負担の増加につながる恐れがある。

○ 仮にモノトーンを廃止する場合、ナンバープレートの製造・管理コストがある程度削減されることが考えられるが、地方版図柄入りナンバープレートの導入とセットで考えることはできないかな。ナンバープレートの製造技術の進歩によるコスト削減についてもあわせて考えられないかな。

○ ナンバープレートの製造技術については各メーカーで品質を向上させるための研究を行っているところ。日本のユーザーは品質を重視するため、安かろう悪かろうではなく一定の品質を保つ必要があり、供給者側も企業努力を継続していきたい。

○ 導入要件の検討については、供給者側の負担が大きいというのであれば、導入を希望する自治体が供給者側の採算ラインまでは全部のナンバープレートを買取る対応も考えられるのではないか。自治体からの要望を大切にすることも必要だが、国の自動車登録制度の維持にも関わる点には留意する必要がある。

<今後の進め方（案）について>

○ 今回のユーザーとディーラー向けのアンケートは良い情報が集まったと思う。アンケートの回答から導き出されたように、デザインが「派手すぎるから」という理由で図柄入りナンバープレートを選ばない人がいるということを考慮し、新たな全国版、地方版を導入する際には、図柄を派手すぎないものとする審査基準を設定する等の活用ができるのではないかな。

○ 政府は、地方創生 2.0 を掲げ、地方創生を推進しているが、地方版図柄入りナンバープレートが貢献できることがあるのではないかな。全国版図柄入りナンバープレートの寄付金の使途、抽選対象番号の取得者決定方法や地方版図柄入りナンバープレートの次回導入のあり方等、今後決めるべきことや課題も多いが、事務局には本日の意見を踏まえた対応をお願いしたい。

以上